甲州市学校運営研究会

「ＰＴＡ活動と連携した学校運営のあり方」
―活動の活性化と教頭のかかわり―

Ⅰ　はじめに

ＰＴＡ活動は，家庭及び地域と学校が一体となって児童・生徒の健全な成長・発達を願って行う活動である。したがって，ＰＴＡ活動の活性化は，教育活動の活性化につながり，特色ある学校づくりに重要な役割を果たす。しかし，児童・生徒数の減少や統廃合，地域社会との結びつきの希薄化や社会状況の変化等により，会員の参加意欲が減退し，活動の形骸化に陥るケースも見受けられるようになってきた。

この状況は，人口３万人あまりの甲州市の小中学校（小学校１３校，中学校５校）にも当てはまる。甲州市は，桃やブドウ，ワインが特産の農業と歴史文化財での観光の町で，祭りや地域の清掃作業等を通して住民の結びつきは比較的強い。しかし甲州市も例外ではなく，近年の少子化による会員数の減少やＰＴＡ活動に係る事務負担の増加により，組織や活動内容そのものを見直す時期にきていると言える。

これらを踏まえ，「ＰＴＡ活動の活性化」を研究主題に掲げ，３年計画で研究に取り組んできた。

Ⅱ　研究のねらい

１　各校のＰＴＡ活動の現状と教頭のかかわりについて実態調査の内容を把握し，課題を明確にし，課題に向けての具体的方策の検討と各校の現状と実践発表をする。

２　ＰＴＡ活動への参加意識を高める工夫を考え，活動を活性化し，積極的に参加するための教頭のかかわり方について提言する。

３　提言を生かした実践から，ＰＴＡ活動を活性化するための教頭のかかわり方について成果と課題をまとめる。

Ⅲ　研究の内容

昨年度までの実態調査と各校の実践報告から，ＰＴＡ活動の学校運営に果たす役割や重要性がはっきりした。そして，ＰＴＡ活動の目的を踏まえて１年間を見通す視点や，保護者に在校児童・生徒の願いや考えを踏まえた視点をもってもらうためには，事務局である教頭のかかわり方の工夫が不可欠である事が確認された。一方では教頭としてＰＴＡ活動にどのようにかかわっていくか。特に，組織運営や会員の意識向上等，各校で頭を悩ませている現状も明らかになった。

本年度は２年間の研究成果を踏まえ，ＰＴＡ活動の活性化に向け，教頭として留意したいこと，及び考えられる具体的な取り組みを昨年度までの大きな成果であると同時に課題でもある５つの柱とし，各校の実態と照らし合わせ具体的に取り組んだ。そして，教頭としてのかかわり方について共有化を図り，主題に迫った。

Ⅳ　成果と課題

五つの柱

Ⅰ　ＰＴＡの取り組みに対する保護者の要望や考えをできるだけ早く把握する工夫
- 活動前後のアンケート調査の実施
- 小中合同の活動の実施

Ⅱ　地域住民の学校への期待や要望を把握し，地域と連携した活動にする工夫
- 積極的で細やかな情報発信
- 地域に関する情報収集

Ⅲ　奉仕作業や学校行事への協力の機会を会員の参加意識の向上につなげる工夫
- 参加しやすい体制づくり
- 父親の参加を促す活動の実施

Ⅳ　子供と一緒に活動する場の設定
- 「子供のためになった」と実感できる活動の企画・運営

Ⅴ　組織や活動内容が実態に即しているかの自己点検
- 執行部・役員との連携･協力体制作り
- 役員との信頼関係構築

５つの柱は，各校のＰＴＡ活動の活性化につながる大きな手立てとも言える。各校の教頭が，自校のＰＴＡ活動を行う際にこの柱を意識していくことが，活動の活性化に必ずつながってくると思う。と同時に，この５つの柱を全教職員が，意識して取り組んでいけるかがポイントになってくる。

教頭として，ＰＴＡ活動の活性化を図る上でどの様な形で推進していくかは，学校規模や組織，また，地域性等によっても違ってくると思われる。様々なＰＴＡ活動への取組を通して，保護者同士のつながりや学校への理解も深まり，行事等への保護者の協力体制も高まることが望まれる。各学校では，事務局（教頭）が中心となり計画するだけでなく，執行部や役員，専門部が主体的に企画・運営に携わり，自分たちの手で運営できるようなＰＴＡ組織の構築や意識向上の工夫改善を行っている。ＰＴＡ会則等の見直しは学校側からというより，保護者側の意見から行われ，その結果，保護者にもＰＴＡ活動に主体的にかかわっていこうという意識の高まりが見られたという実践例も報告された。原案は事務局である教頭が立て，企画・運営の細かな部分については，それぞれの専門部に任せることで，主体が学校側だけでなく，保護者側にも広がっていった。また，活動の前の計画の段階でＰＴＡ役員会や各専門部会を開催することによって，学校側だけでなく保護者にも運営主体としての意識が広がっていったなどの例も報告された。一方，家庭数が減少し，ＰＴＡ会員の地区によっての差は益々ひらき，役員の負担が大きくなっているところも見られる。また，参加協力が減る中で，ＰＴＡ執行部，役員以外の保護者の意識を高めることにも課題が残る。今後も，保護者自身が負担に感じない「子供たちのためになる楽しい意義あるＰＴＡ活動」にするために，研究の成果である５つの柱を常に念頭に置き工夫改善を更に進めていきたい。

（課題別研究部長　志田　市造）